

令和6年（2024）6月14日～6月18日

令和6年度（2024）

第2回出雲市議会(定例会)
一般質問通告一覧表

令和6年度（2024）第2回出雲市議会（定例会）

一般質問通告一覧表 目次

6月14日（金） 10:00 開会			6月17日（月） 10:00 開会			6月18日（火） 10:00 開会		
順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ
1	板倉 一郎	3	1	今岡 久人	10	1	木佐 宏	17
2	錦織 稔	4	2	大場 利信	11 12	2	伊藤 繁満	18
3	南 浩二	5	3	後藤 由美	13	3	湯浅 啓史	19
4	高橋 扶治夫	6	4	大谷 良治	14	4	鐘推 義憲	20
5	福田 実	7	5	吉井 安見	15	5	寺本 淳一	21
6	石橋 広信	8	6	保科 孝充	16	6	本田 一勇	22
7	福島 孝雄	9						

質問者	27 板倉 一郎
質問事項・質問内容	
(1) 子育て支援について	
<p>① 現在、円安や国際的な原材料価格の高騰により、賃金上昇を上回る物価上昇が続いています。子育て世帯の方から更なる子育て支援策の充実を求める声や、産休育休明けで早期に復職を望むが、保育所に入所できないといった早急な待機児童対策を望む声があります。</p> <p>そこで出雲市の子育て支援策について次の点を伺う。</p> <p>ア 子育ての経済的支援策について伺う。</p> <p>a 現在の支援策および支援を拡充する考えがないか伺う。</p> <p>b 子どもの医療費助成制度の拡充について伺う。</p> <p>c 学校給食費について支援する考えはないか伺う。</p> <p>イ 出雲市の待機児童対策について伺う。</p> <p>a 令和6年度の国基準による待機児童は、4月1日時点で0人であったとの報告があったが、産休育休明けの入所希望者のうち、4月2日以降の未決定者は何人いるのか伺う。また、昨年度期中での入所を希望した人のうち未決定の人は何人いるのか伺う。</p> <p>b 保育所の待機児童解消対策について伺う。</p> <p>c 保育所の待機児童解消対策として、幼稚園での預かり保育を実施しているが、幼稚園での、共働き世帯の児童数、また保育所から幼稚園に転園した児童数について伺う。</p> <p>d 産休育休明けの待機児童解消のため、3、4、5才児の保育所から幼稚園への転園を促す方策について伺う。</p>	

質問者	13 錦 織 稔
質問事項・質問内容	
(1) 「大規模災害に備える携帯トイレ等の備蓄」の推進を	
<p>① 能登半島地震では、国によるプッシュ型支援により「仮設トイレ」が各地の避難所に届き始めたのは、発災から4日目以降と伺っています。つまり発災から3日間は、自治体で「携帯トイレ」及び「簡易トイレ」を確保しなければならないということになります。トイレが不足することにより、特に高齢者は、飲食を控え体力が減耗し、エコノミークラス症候群になる方が増加するなど、“災害関連死”も懸念されます。</p> <p>災害時のトイレの確保は、“災害関連死”を防ぐために不可欠な取り組みであり、被災者の「命を守る」取り組みとして重要です。そこで携帯トイレ等の備蓄について伺います。</p> <p>ア 携帯トイレ等の備蓄目標と現在の備蓄数について伺います。</p> <p>イ 介護施設や障がい者福祉施設における携帯トイレ等の備蓄を支援すべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>ウ トイレトレーラーの導入の検討について伺います。</p>	
(2) 円滑な健康診断実施のための環境整備の推進について	
<p>① 学校で実施されている「健康診断」について伺います。</p> <p>ア 文部科学省は、正確な診察に支障のない範囲で原則、上半身裸ではなく体操服等で体を覆うなど、子どもたちのプライバシーや心情に配慮した環境整備を行うよう、令和6年1月22日付けで、全国の学校に具体的な取り組みなどを通知しました。本市においても、文科省が示したように、正確な検査や診察に支障がない範囲で、児童生徒のプライバシー等に十分な配慮を行い、児童生徒が安心して受けられる「健康診断」を実施していくことが重要だと思います。本市の健康診断の（現在の）状況について伺います。</p> <p>イ 文部科学省は、自治体に対して地域の医師会と健康診断の際の実施方法を協議し周知するよう求めています。本市において医師会と健康診断の実施方法について協議されたのか伺います。</p>	

質問者	2 南 浩 二
質問事項・質問内容	
(1) 遊具が設置してある公園について	
<p>① 日本の様々な地域でインクルーシブ公園が増えつつある現状などを踏まえて、出雲市だからこそインクルーシブ公園が必要ではないかという認識を持つに至りました。まずは遊具の更新にあわせてインクルーシブ遊具の設置をいくつかの公園から早期に始めつつ、将来的にはインクルーシブ公園の整備を目指していくべきだと考えますが市の所見を伺います。</p> <p>② インクルーシブ公園が地域にあることでどのような利点があるのか、従来の公園との施工の違いや特徴、整備しようとした場合の予算を含めた課題などについて伺います。</p>	
(2) 新規就農者の確保と育成について	
<p>① 島根県がこれから策定予定の次期島根県農林水産基本計画における新規自営就農者の目標設定などにおける出雲市としての考え方について。</p> <p>② 出雲の農業を考える会からの要望に対しての回答内容と、要望を踏まえての市のその後の対応について。</p> <p>③ 新規就農相談フェアのこれまでの実績と昨今の就農相談の状況について。</p>	

質問者	7 高橋 扶治 夫
質問事項・質問内容	
(1) 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の取り組み状況について	
<p>① 平成28年度税制改正において創設された地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）は、「法人」を対象とした制度であり、地方公共団体が取り組む地方創生プロジェクトに対して、企業が寄附を行った場合に、税額控除の措置を受けることができるものです。企業版ふるさと納税の取り組み状況について、2点質問します。</p> <p>ア 「企業版ふるさと納税」の年度別の寄附件数と寄附額を伺う。</p> <p>イ 「企業版ふるさと納税」と「企業版ふるさと納税（人材派遣型）」の取り組み状況と今後の方針について伺う。</p>	
(2) 市内小中学校の施設整備と環境整備状況について	
<p>① 出雲市では、学校施設の教育環境の質的向上を図っていくために、経年劣化による改築や大規模改修を必要としているところの整備が進められていますが、現在の市内小中学校の施設整備と環境整備状況について、4点質問します。</p> <p>ア 平成23年度に15年計画として策定された出雲市学校施設整備・耐震化基本計画と学校施設増改築・大規模改造計画について、現在の進捗状況と今後の主な予定を伺う。</p> <p>イ 市内小中学校のエアコンの設置率とトイレの洋式化率の現状および今後の整備方針を伺う。</p> <p>ウ 学校施設のバリアフリー化の現状と今後の整備方針を伺う。（バリアフリートイレ・スロープ・エレベーターなど）</p> <p>エ 災害時に避難所となる市所有の体育館の環境整備状況と今後の避難所対策計画を伺う。</p>	

質問者	3 福田 実
質問事項・質問内容	
(1) 現在の地籍調査の状況について	
<p>① 能登半島地震以降、国土強靱化に向けた災害への備えとして地籍調査は本市においても重要と考えます。そこで、以下質問いたします。</p> <p>ア 現在の地籍調査の進捗状況を伺います。</p> <p>イ 今後の地籍調査の進め方を伺います。</p>	
(2) コミュニティセンターを含む本市の業務体制について	
<p>① 現在の出雲市の業務体制などについて伺います。</p> <p>ア 本庁の業務・役割をお聞かせください。</p> <p>イ 行政センターの業務・役割をお聞かせください。</p> <p>ウ コミュニティセンターの業務・役割をお聞かせください。</p> <p>② 現在のコミュニティセンター職員の交流事業・待遇などについて伺います。</p> <p>ア 現在のコミュニティセンター職員の交流事業の状況を伺います。</p> <p>イ 現在までのコミュニティセンター職員の交流事業の実績、成果を伺います。</p> <p>ウ 今後の職員の交流事業の進め方、考えを伺います。</p> <p>エ 現在のコミュニティセンター職員の待遇を伺います。</p>	

質問者	5 石橋 広信
質問事項・質問内容	
(1) 不登校対策に関する取組みについて伺う	
<p>① 「出雲市不登校対策指針」の内容に関して伺います。</p> <p>ア 1,000人あたりの不登校児童生徒数のうち本市の中学生の割合が国、県を大きく上回っている理由は</p> <p>イ 新規の不登校は特に中学1年生が多いようだが、中学3年生で減少する理由は</p> <p>ウ 不登校の要因で多い「無気力・不安」はどういった状況ですか</p> <p>エ 不登校対策としての別室利用と不登校相談員の対応や配置の状況はいかがですか</p> <p>オ 教育支援センターの現状と今後の方向性</p> <p>カ ひきこもり傾向の児童生徒に対する不登校対策指導員の取組みとICT機器の活用状況</p> <p>キ 不登校対策の基本的な考え方の中で「学校だけではなく多様な学びの場を確保し、個々の学びを保障する」とありますが、その内容に対して伺います。</p>	
(2) 市民サービス等の向上を目指した情報発信の強化について伺う	
<p>① 出雲市の情報発信の媒体はどのようなものがあり、それに対しての世代別の利用状況をお伺いします。</p> <p>② 同じ内容で観光客の方々に対してはいかがでしょう。お伺いします。</p> <p>③ 現在の出雲市のデジタル化による主な行政サービス等の取り組みをお伺いします。</p> <p>④ スマホ教室が活発に行われていますが、直近の市民のスマホ活用状況をお伺いします。</p>	

質問者	20 福島孝雄
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市の学校図書館の現状について	
<p>① 学校図書館の実態について伺う。</p> <p>ア 図書標準の現状（所定の所蔵冊数を満たした学校数の割合）を伺う。</p> <p>イ 地方交付税交付金算定額と年間の図書購入予算額（地方財政措置）を伺う。</p> <p>ウ 年間の図書廃棄率を伺う。</p> <p>エ 予算措置配分（古い図書の更新と新しい図書購入の割合）を伺う。</p> <p>② 学校図書館システム（管理ソフト）導入状況を伺う。</p> <p>③ 学校図書館充実に向けた市の方針を伺う。</p>	
(2) 農業における温室効果ガス削減について	
<p>① 出雲市としての温室効果ガス削減の取り組み（全般）状況を伺う。</p> <p>② 農業における市内のJクレジットの取り組み状況を伺う。</p> <p>③ 全国及び市内の水稻栽培における「中干し延長によるJクレジット」の取り組み状況を伺う。</p> <p>④ 中干し延長による水稻栽培への影響を伺う。</p> <p>⑤ 出雲市におけるJクレジット買取り企業の現状を伺う。</p> <p>⑥ 全国的なJクレジット買取り価格及び、出雲市の販売額を伺う。</p> <p>⑦ 出雲市としての温室効果ガス削減の全体目標と農業分野での目標を伺う。</p>	

質問者	8 今岡久人
質問事項・質問内容	
(1) 放課後児童クラブにおける待機児童対策について	
<p>① 児童クラブに入れない待機児童が沢山いる事を聞きました。この解消に向けてどのような取り組みをなされているのか伺います。</p> <p>② 一方で受け入れる児童クラブ職員の人材確保対策はどのような状況なのか伺います。</p> <p>③ 市立以外では、各小学校校区内の社会福祉法人等に対して、支援が行われています。各法人の経営方針もあると思いますが、法人への支援により受け入れ数が増えるような改善は出来たのでしょうか、伺います。</p>	
(2) 山陰地区における新幹線誘致の考え方について	
<p>① 山陰における新幹線の構想は、伯備新幹線と山陰新幹線の二つのルートが構想としてあります。現在出雲市駅周辺には、伯備新幹線誘致に関する看板が3か所設置されております。やはり伯備新幹線への期待が大きいのかと考えますが、出雲市はどのようにお考えなのか伺います。</p> <p>② 伯備新幹線は、基本計画によると岡山～松江間と示されています。新幹線を整備するにあたり、費用は勿論のこと、在来線問題等克服すべき課題は沢山あります。新幹線だけでなく、電車を走らせるためには修理などを行う車両基地が必要になります。現在出雲市内にはやくも号を中心とするJRの車両基地があります。この基地を有効活用すれば良いのではと考えます。出雲市にとってアピールポイントではないでしょうか。お考えを伺います。</p>	

質問者	22 大場利信
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市の人口対策について	
<p>① 地域の人口の増減は、地域の将来を見通す上で、基本となる指標です。特に少子化が進行する現在、地方自治体の施策運営に大きな影響を与えます。 出雲市においては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で毎年の状況が検証・評価されています。一方、全国レベルでは今年4月24日に、民間有識者で構成する「人口戦略会議」が若年女性人口の2020年から2050年間の長期的な推移を基に「消滅可能性自治体」というセンセーショナルな表現で発表を行いました。 このような動きの中、出雲市の将来の人口について、以下質問いたします。</p> <p>ア 出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略（令和2年度～令和6年度）の数値目標（5項目）のうちの「社会増」と「出生数」について</p> <p>a 社会増：目標1,600人 令和2年度～4年度864人、令和4年度実績▲44人ですが、44人減少した理由および目標に近づける方策</p> <p>b 出生数：目標8,000人、令和2年度～4年度4,221人、令和4年度実績1,350人ですが、目標に近づける方策</p> <p>イ 人口戦略会議は若年女性人口（20歳～39歳）の社会減（人口流出）および自然減（出生率の減）の減少率を基に地方自治体の消滅可能性を公表しました。出雲市は消滅可能性自治体に分類されていませんが、「自然減対策と社会減対策が必要」とのランクに分類されています。人口戦略会議の三村明夫議長は「各地方自治体や地域の人口の実情と課題を考える上で参考にしていただければ幸いである」とコメントしておられますが、人口戦略会議のこのような分析についてどのように考えられるのか伺います。</p> <p>ウ 人口減少対策は、各種施策の総力戦と言われていています。出雲市においても今日まで「働き場の確保」を基本に様々な施策を実施してきています。人口戦略会議が着目される若年女性人口は子育て世代の中心であり、多くが、核家族化傾向の中、雇用環境や所得も厳しく、育児と仕事の両立が大変で「2人目の壁が高い」とのマスコミ報道を見聞きします。市内の子育て女性（子育てが終わった世代も含めて）が掲げる人気施策は、十分な所得と子どもの医療費助成と保育の場の確保であると考えます。そこで伺います。</p> <p>a 子育て世代に「愛される出雲市」のため、自然減対策（出生率の向上）と社会減対策（人口流出の是正）について、改めて伺います。</p> <p>b 出雲市役所における男性職員の育児参加に関する制度と実践についての現状を伺います。</p> <p>エ 出雲市の産業の振興や人口を考える上で外国人の存在は無視できません。民間やNPOとの連携を含め引き続き共生施策を充実されるべきと考えます。これについて市の考えを伺います。</p>	

(2) 斐川まめながタクシーの運行の拡充について

- ① 斐川まめながタクシーについては、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方あるいはこれらの方の介護者の方から喜ばれております。最近では1年度間に5千人以上の方が利用されています。今まで、目的地の追加や運賃（利用料金）の減額など利用しやすいように変更され地域では感謝されています。

従来から要望されていました午後の便（帰りの便）の運行については、継続協議となっています。

また、今年度からバス・タクシー運転手確保支援事業が新設され、2種免許取得費の助成が設けられました。この制度とも関連し、以下伺います。

ア 運転手不足と言われる中、事業者への2種免許取得費助成についての取り組みについて

イ 斐川まめながタクシーの午後の便（帰りの便）の運行の実施に向け、事業者の方の理解を得ることについて

質問者	1 1 後藤由美
質問事項・質問内容	
(1) 中小農家に対するさらなる支援について	
<p>① 出雲市の農業経営体は年々減少し、それに伴い経営耕地面積も減少を続けています。この現状が続けば、10数年後には出雲の農業が消滅しかねません。「農業で暮らせない」「担い手がない」との声に、市として今まで以上の対策が必要となります。とりわけ中小農家に対するさらなる支援が求められています。そこで伺います。</p> <p>ア 国会では5月末、「食料・農業・農村基本法」の改定法が成立しました。「食料自給率向上・回復」を最大の目標にされるべきでしたが、「食料安全保障の確保に関する事項」に書き換え、食料自給率の向上を投げ捨てた結果となりました。全国市長会を通じて国に食料自給率の向上を要望してきた市として、今回の改定法成立をどう認識しておられるのか、市長の見解を伺います。</p> <p>イ 農業者が営農を続け、農村で暮らせる土台を整えるために、価格保障や所得補償を抜本的に充実させ、農業で食べていけるようにすることは国の責任です。しかし、国は大規模化・法人化を一貫して推進し、多数の中小農家が離農していきました。市は、農家の方々が希望をもって働き続けられるよう、農産物の価格保障、所得補償を抜本的に充実させるよう国に求めるべきです。市の所見を伺います。</p> <p>ウ 市は、今年度から水田園芸作物を栽培する農業者に対する支援を行うなど、複数の新規事業に着手します。「担い手不足・従業者の高齢化」に対応したこれらの事業も重要ですが、市の農業の主体は中小農家の米作りです。米作りが今後も続けられるような思い切った支援が必要です。市独自の価格保障、所得補償の引上げ等で、中小農家の米作りも安定的に経営できるようにするべきです。認識はいかがですか。</p>	
(2) 中山間地域への定住促進策について	
<p>① 出雲市は、17万人という人口をキープしている一方、中山間地域においては人口減少や若い世代の定住が少ないことによる将来への不安が益々広がっています。市としても現状打開のため、「中山間地域振興室」を3年前に設置されましたが、人口減少は止まっていません。中山間地域において「住民が主役」で、誰もが住みやすい地域にしていくための、更なる施策が求められています。そこで伺います。</p> <p>ア 市内の中山間地域とそれ以外の地区で、人口の格差が広がっています。原因をどう分析しているのか伺います。</p> <p>イ 出雲市は小学校・中学校の統廃合をすすめてきましたが、地域に保育園(所)・幼稚園や小学校があつてこそ地域活性化が保たれると考えます。市長の認識を伺います。</p> <p>ウ 出雲市への移住支援策の中で、中山間地域向けは「出雲市自然豊かな地域住まいづくり助成金」と「出雲市移住促進住まいづくり助成金」があります。この助成金で、対象地域にどれだけ移住・定住が進んだのか、現状を伺います。</p> <p>エ 中山間地域に若い世代の定住促進を図るためには、思い切った施策が必要です。対象地域に「新婚・若者定住促進住宅」等を計画的に建設するなどし、その地域を選んでもらえる特別な施策が重要と考えますが、所見を伺います。</p> <p>オ 定住促進策をすすめながらあらゆる問題を解決するためには、その地域ごとの計画づくりに住民が参加し、合意形成を図ることが大切です。住民の悩みに寄り添い要求を聞きつつ「中山間地域振興室」とともに検討し、すすめていくことを提案します。市の所見を伺います。</p>	

質問者	16 大谷良治
質問事項・質問内容	
(1) 平和啓発と次世代への継承について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 平和啓発について <ul style="list-style-type: none"> ア これまでの取組み <ul style="list-style-type: none"> a 戦没者追悼・平和祈念式典について b 小・中学校での平和学習等の取組み ② 次世代への継承等について <ul style="list-style-type: none"> ア 戦後80年の節目にむけた取組み <ul style="list-style-type: none"> a 県や関係団体と連携した平和啓発 	

質問者	1 吉井安見
質問事項・質問内容	
(1) 放課後児童クラブの拡充について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 放課後児童クラブが果たしている役割について、市の認識を伺う。 ② 今年度の受入体制と入会状況について伺う。 ③ 申込者数と受入児童数の推移について伺う。 ④ 施設や体制を整備し、児童を受け入れる体制の拡大が必要と考えるが、市の方針を伺う。とりわけ、新たな住宅建設が集中している地域では、速やかな具体化が求められているが、認識を伺う。 ⑤ 児童を健全に育成するにあたっては、保育所・幼稚園、小学校などとの連携が必要と考えるが、認識を伺う。医療的ケア児など、特別の支援を要する児童を受け入れるための取り組みについて伺う。 ⑥ 施設整備と同時に職員の処遇改善が求められている。一時金も含め、専任指導員、パート指導員別の賃金の現状を伺う。 ⑦ 物価高騰のなか、ケア労働の現場でも処遇の大幅な引き上げが求められているが、市の対策を伺う。 	
(2) 原子力災害時の避難体制と使用済み核燃料の処分について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 能登半島地震では、1週間以上孤立する地域も生まれた。道路の寸断や家屋倒壊、海岸の隆起が発生し、複層的な避難路の確保が課題になっている。空路等による避難体制の整備状況について伺う。 ② 広域避難計画を実効ある計画にすることが求められているが、広域避難計画はどのように改定されているか。帰省客や観光客が多くなる時期の想定も追加すべきと考えるが所見を伺う。 ③ 玄海原発が立地する佐賀県玄海町の町長は、高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定に向けた文献調査受け入れを表明した。島根県の丸山知事は5月9日の記者会見で「核のゴミ」の受け入れについては断固反対の立場であるとしているが、市長の考えを伺う。 	

質問者	24 保科孝充
質問事項・質問内容	
(1) 出雲ICから斐川ICにかけての「南部幹線道路」整備を	
<p>① 令和4年9月議会の一般質問で、執行部は「出雲ICから斐川ICにかけて一連の路線としての道路を整備する考えはない」との答弁でした。</p> <p>令和7年3月には、山陰道多伎・湖陵・出雲区間が開通見込みであり、西方面から来る車は、有料となる区間を避けて出雲ICで降りて、しまね花の郷・島根大学医学部・寿生病院・南神立橋・斐川の工業団地へ進む可能性が大きいと考えられます。斐川には新しい工業・住宅団地の整備が予定されており、交通量は一層多くなり、通勤・通学・物流の面において大きな影響が出ると予想されます。一連の路線としての「南部幹線道路」を整備するの必要を感じますが市の考えを伺います。</p> <p>ア 中海・宍道湖8の字ルート、境港出雲道路、など様々な形で要望活動をされているが、「南部幹線道路」は、周辺の工場・学校・病院の立地からくる交通量の実態と、周辺の今後の様々な計画をみると重要度は勝るとも劣らないと考える。市としてこの路線を重要路線として協議会を結成するなど検討すべきと考えるが所見を伺う。</p> <p>イ 古志大橋に並行して2車線用の橋脚・橋台だけが建設されている区間があり、建設から20年以上経過している。今後の整備の考え方について伺う。</p> <p>ウ 南神立橋周辺は西行き・東行きともに、特に通勤通学時は慢性的な渋滞が発生している。4車線化あるいはそのほかの方法での対策を望むが市の考えを伺う。</p>	
(2) 人口減少社会における働き手・人手不足対策を聞く	
<p>① 人口減少が続く中で、働き手・人手不足が深刻な問題となっています。現在の実態と今後の推移と解決策について伺います。</p> <p>ア 人口と労働力人口について</p> <p> a 日本・島根県・出雲市の将来的人口推移を伺う 10・20・30年後(2050年)までの人口推移</p> <p> b 出雲市の外国籍登録者人口・労働力人口を聞く 国別に上位5か国</p> <p>イ 出雲市の人手不足の実態を伺う</p> <p> a 経済界の声は。実体の把握は。解決策に向けての動きは。</p> <p>ウ 働き手の確保対策について伺う</p> <p> a 5月21日に国会において、「外国人の育成就労の適正な実施及び育成就労外国人の保護に関する法律」が衆議院で可決し、今国会で成立する見通し。技能実習に代わるものとして期待できる。この法案成立前の現在と改正後の、就労職業・就労期間を伺う。期待できる効果をどのように考えているか。</p> <p>エ 外国人労働力の活用について</p> <p> a 労働力人口を求める現実的な課題として、東南アジアに目を向けた政策が実利に叶うのではないのか。 ベトナムあるいはタイ・フィリピン・インドネシア等に活動拠点を置いて、人手不足の解消に努めるために連携・交流を深めるべきと思うがいかがか。</p>	

質問者	1 5 木 佐 宏
質問事項・質問内容	
(1) 旧市役所跡地が存亡の危機・現状変更指針に平成の世直し人は異議、各課題提唱、全ての皆様が市政を市民の手に取り戻す契機と、既成概念に捉われず議論に参画を乞う！	
<p>① 本市議会に置く公共財産活用特別委員会で検討審議されている中の一つに旧出雲市役所跡地をどうするのか問われている。本庁舎同一敷地に値する掛け替えなき隣接地当該土地は絶対に手放してはならない全市民の宝、拙速な解決は後世に後悔を及ぼす。</p> <p>② 公共財産見直し対象物件に掲げてないが、標題の該当土地が売却・転用されたら取り返しが付かない事案と警鐘！本庁舎南側公園敷地8400㎡を、周辺23ヶ所に点在する職員の739台の自家用車駐車場として活用すべきと立体駐車場を提起する。</p> <p>ア 23ヶ所の駐車場の内、最大遠隔は500m先！悪天候時には15分～20分の徒歩所要時間を要すとか？主婦(男女問わず)の立場から朝の15分20分は(金に換算出来ない苛酷なもの)また働き方改革視点から視れば無償のサービス労働提供が懸念問われ兼ねない課題と認識する。縁あって本市職員で勤務の方々に、職責の完遂を願う上でも是非とも処遇改善を市民の皆様にも理解を乞う！</p> <p>イ 何故平成の世直し人が斯かる事案に深入りとの疑念もあるかと存じますが、従前から消防団員の30数年にも及ぶ不条理な待遇を強く指摘改善指す、更には会計年度任用職員の中でも特に就職水河期35歳～55歳年齢層の救済視点特記し早く、一人でも多く本採用を進言続けて来た。更には深夜に及ぶ特定部の職員の心身の健康上の懸念をも指摘改善を要請活動の経緯からの一環。</p> <p>③ 昨今は気候の変容により、市街地中心部にも、完璧なる耐震設計・強靱安全な避難施設(2階以上の頑丈な構造物)が全国の自治体にも必然的かつ喫緊課題として求められているのでは有りませんか！世情の斯様な要請にも相乗効果が適えられる事業とし一考を願うに併せ、是非とも全市民の皆様も議論への参画を要請致しておきます。</p> <p>④ 現在使用の皆様方から反発も予想、予見出来無い事も無いが、全市地域の対等、平等、公平性視点に鑑み、既成概念に捉われず、職員の処遇改善と当該公園の維持管理費用を精査・深慮すれば主権者の最大公約数の民意の賛同は必ず得られるものと確信する。</p> <p>⑤ 万一にも南側公園緑地を無くせないと言う理屈が存在するならば、公共財産活用見直し筆頭に掲げられている旧出雲市役所跡地(現在公用車駐場所4000㎡)を南側緑地公園、あるいはイベント広場への代替え地として活用すべきものと進言します。</p>	

質問者	23 伊藤繁満
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市行財政改革大綱及び実施計画の課題について伺います。	
<p>① 新型コロナウイルス感染症の影響により日常生活、経済活動全般において支障が出ていましたが、徐々に以前の状況に戻りつつあります。しかし近年の石油、電気料金等の値上げ、為替レートの変動により、業種によっては元の状態にはならず廃業や業種転換等を余儀なくされている分野もあり、経済状況は相対的にみて厳しい状況にあります。</p> <p>市においてはデジタル化の推進、脱炭素化推進の時代に向かい、多様な取り組みが展開されています。このために市内部においても組織、機構の改組改編が進められ、市民サービスの向上に向けてスタートされています。先に公表された第3次出雲市行財政改革大綱と前期実施計画について課題と問題点を伺います。</p> <p>ア 大綱の目標設定の数値は無理があり、難しい目標値ではないかと考えています。令和6年度予算においても既にかけ離れた予算となっています。下記の点を伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> a 歳出規模の抑制⇒750億円程度の規模 b 市債残高の縮減⇒740億円程度に縮減 c 健全化指標の改善⇒実質公債費比率は12%未満、将来負担比率は100%未満 d 基金残高の確保⇒最低でも20億円以上を確保 <p>イ 新規事業の立ち上げには原則既存事業を廃止、又は縮小とされています。令和6年度においては、新規事業58事業、拡充事業25事業としていますが、縮小、廃止事業数はいくらか伺います。</p> <p>ウ 義務的経費が年々増加しています。特に扶助費、人件費（会計年度任用職員数の増、65才定年延長、消防職員数の増）の増額は抑制できないのではないかと考えていますが、投資的経費や子育て支援、対策費等に充てる財源はあるのか、その手法について伺います。特別会計予算（病院職員の定数増等）への繰出金も増加していくと考えていますが、併せて伺います。</p> <p>エ 普通会計の施設維持管理費に年間50億円計上されていますが、真水の50億円とすれば速やかにスクラップすべきではないかと考えています。このことについて伺います。</p> <p>オ 歳入のベスト3である①市税②地方交付税③国県支出金の見通しと確保策について伺います。</p> <p>カ 面積が広大であるが故に広範囲にわたり諸事業が行われています。事業の効率性を考慮し実効あるものにすべきであります。また、急な予算縮小の目標値設定は市民サービスの低下や、料金、使用料等の値上げに跳ね返る恐れもあり慎重にすべきです。このことについて伺います。</p>	

質問者	18 湯 浅 啓 史
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市の将来推計人口について伺う	
<p>① このところ、地域の将来人口についての推計が発表されている。国立社会保障・人口問題研究所からは令和5年(2023)12月22日に『日本の地域別将来推計人口(令和5年(2023)推計)』が公表された。また、令和6年(2024)4月24日には、人口戦略会議という民間団体から『令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート』が発表されている。</p> <p>一方、市としては、令和2年(2020)3月に策定された『出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略』の「人口ビジョン」において、市の将来推計人口などがまとめられている。</p> <p>これらを踏まえて、以下の点について伺う。</p> <p>ア 出雲市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の予測より減少するペースが遅いが、その要因をどのように捉えているのか 年齢(5歳階級)別動向、男女別動向、移動理由別、自然増減、社会増減などからの分析はできているか</p> <p>イ 出雲市の将来推計人口は、『日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)』より上向くと考えるが、市の見解は</p> <p>ウ 出雲市総合振興計画「出雲新話2030」における「令和12年(2030)の目標人口17万人台キープ」という目標は達成できるのか</p> <p>エ 年齢区分別の動向を注視するのは大切なことで、過去の数値や他市との比較には良いが、老年人口、生産年齢人口、年少人口というくくりで市の活力の実態がはかれるのか</p> <p>オ 『出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略』の「人口ビジョン」で示されているデータや分析、また、毎年公表されている「統計でみる出雲」中の人口データなどは、市独自で毎年更新できるようすべきと考えるが、市の見解は</p>	

質問者	6 鐘 推 義 憲
質問事項・質問内容	
(1) 次期『出雲市都市計画マスタープラン』、および地域の活性化に向けた取り組みについて伺う	
<p>① 『都市計画マスタープラン』は、長期的視点に立った都市の将来像を明確にし、その実現に向けた大きな道筋を明らかにするもので、将来の“まちづくり”において、とても重要で大きな役割を果たす羅針盤となります。本市では、令和7年度半ばの完成に向けて、令和5年度より次期『出雲市都市計画マスタープラン』の策定に着手され、これまで全体構想について策定が進められています。また、本市においても、今後さらに少子高齢化が進むとともに、人口減少という波に直面することが予想され、持続可能な地域社会や居住環境を守るとともに、地域の活性化対策の取り組みが喫緊の課題となっています。</p> <p>そこで、本市の“まちづくり”において極めて重要なテーマである、次期『出雲市都市計画マスタープラン』、および地域の活性化に向けた取り組みについて、次の通り伺います。</p> <p>ア 次期『出雲市都市計画マスタープラン』について</p> <ul style="list-style-type: none"> a これまでの策定経過 b 現行の『出雲市都市計画マスタープラン』との相違点 c 全体構想（案） <ul style="list-style-type: none"> i 現況と課題について <ul style="list-style-type: none"> (i) 本市の現況 (ii) 市民アンケート調査の概要 (iii) 都市づくりの課題 ii 都市の将来像について <ul style="list-style-type: none"> (i) 都市づくりの目標 (ii) 将来都市構造 iii 都市づくりの分野別整備方針について <ul style="list-style-type: none"> (i) 土地利用に関する方針 (ii) 都市施設に関する方針 (iii) 自然環境、景観、防災・防犯に関する方針 d 今後の策定スケジュール <p>イ 地域の活性化に向けた取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> a 空き家対策 <ul style="list-style-type: none"> i 本市の空き家の現状について ii “さかさまバンク”を活用した空き家対策について b 広域的な地域活性化法の改正に基づく二地域居住等の促進 	

質問者	19 寺本淳一
質問事項・質問内容	
(1) 通学路の横断歩道整備を含めた安全対策について。	
<p>① 特に通学路での横断歩道の白線が薄くなってきている箇所が多く見受けられるように感じる。順次整備されてきているとは思いますが、通学路の安全対策の現状と今後の整備方針を伺います。</p> <p>ア 出雲市全体の通学路の現状をどのように分析されているのか。</p> <p>イ 出雲市通学路安全推進会議の策定した「出雲市通学路交通安全プログラム」の具体的な取り組み。</p> <p>ウ 特に通学路の横断歩道の白線が薄い箇所はただちに修繕すべきと思うが市の考えは。</p> <p>エ 通学路安全支援システムの活用について。</p>	

質問者	14 本田 一 勇
質問事項・質問内容	
(1) 災害対策準備は万全ですか	
<p>① 災害対策の準備について伺います。</p> <p>ア 防災訓練で簡易トイレなど組み立て体験をしますが、実際にテストで使ったことがあるか伺います。</p> <p>イ またどんな種類のトイレが、何個あるか伺います。</p> <p>ウ 市内の井戸マップはありますか。飲めなくても洗濯など生活に使える水が必要と考えますが、所見を伺います。</p> <p>エ 今後、災害発生時に若手職員を被災地に派遣するような計画はあるのか伺います。</p> <p>オ 能登半島地震の災害復旧の遅れが指摘されていますが、島根半島の地震も心配です。 令和3年7月の大雨災害による猪目～河下への道の復旧工事が、大変遅くなったように思ったのですが、どんな工事だったのか、どこが大変だったのか伺います。</p>	
(2) 水害対策の準備は整っていますか	
<p>① 土のうに特化した質問をします。</p> <p>ア 土のう袋の現在の在庫数は。</p> <p>イ 砂の入った土のうの現在の在庫数は。</p> <p>ウ 砂は何処にありますか。</p> <p>エ 改めてどんな時に土のうが必要ですか。</p> <p>オ その時は、誰がつくるのですか。</p>	